

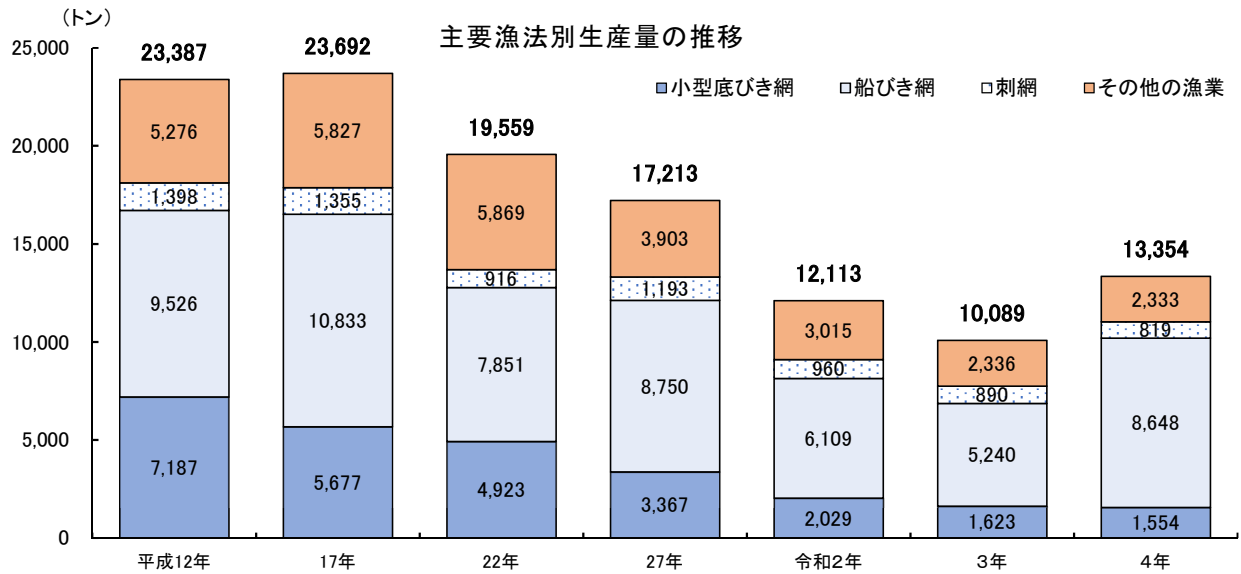
3. 漁業生産の動向

① 海面漁業

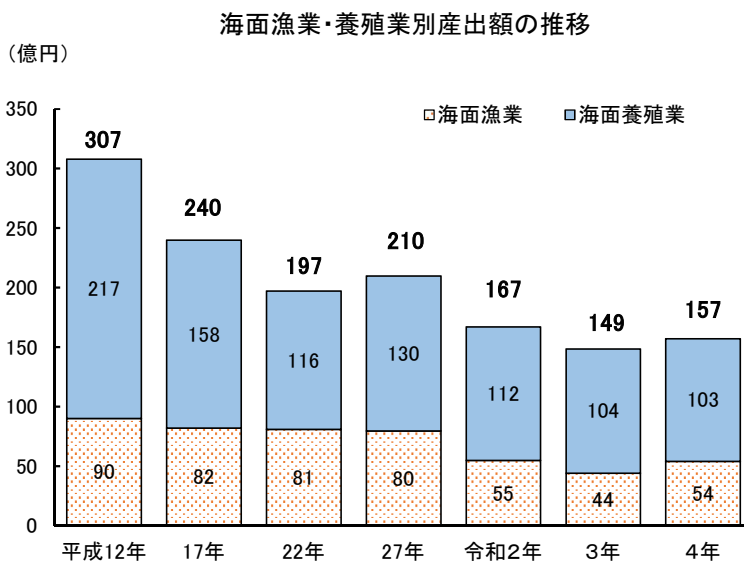
本県の沿岸域では海域特性を活かして、小型底びき網、船びき網、刺網、釣、はえ縄など多様な漁業が行われている。

令和4年の県内海面漁業生産量は13,354 tと、前年に比べ32.4%増加した。漁法別に比較すると、イリコの原料となるかたくちいわしを漁獲する船びき網が前年より65.0%増加し、海面漁業のうち最も経営体の多い小型底びき網では前年より4.3%減少した。生産量全体に占める魚種別の構成比は、かたくちいわし61.6%、いかなご5.4%、たい類5.1%、たこ類2.0%などとなっている。

令和4年の海面漁業産出額（速報値）は54億円と前年より約23%増加した。

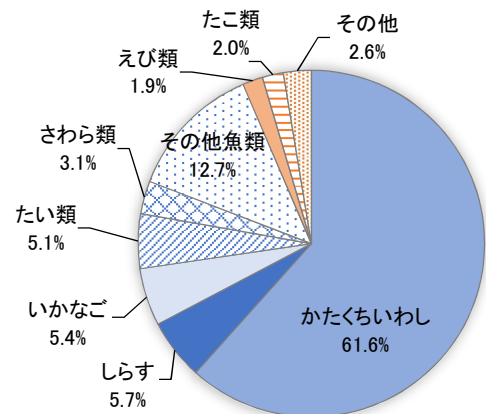


資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」



資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」

県内漁業の魚種別生産量の構成比（令和4年）

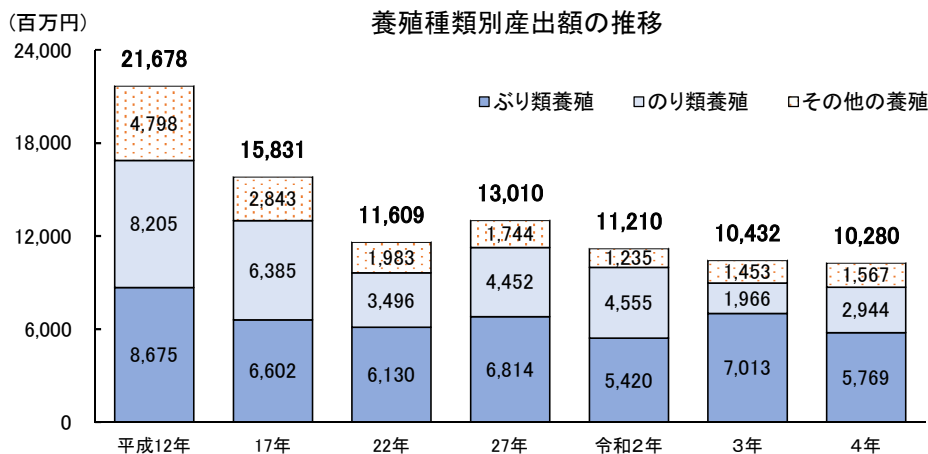
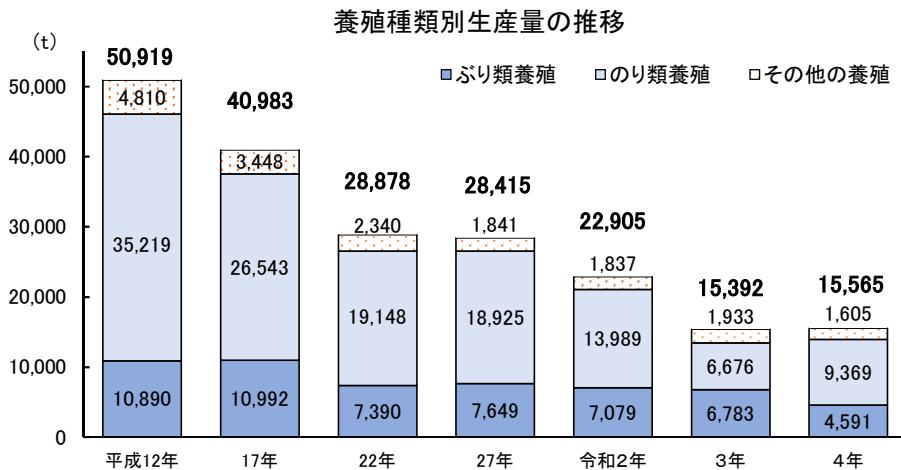


資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」

② 海面養殖業

本県沿岸域で養殖されている種類は、はまちを主とするぶり類、まだい、ふぐ類、かき、のり類、わかめなど多岐にわたっている。このうち生産量ではのり類が、産出額ではぶり類が大きな割合を占めている。しかしながら、のり、はまち、まだいなどについては、全国的な生産過剰の問題により産地間競争が激化している。また、魚類養殖については、輸入水産物との競合、国内ニーズの減少などから市場価格は低迷している。これらのことから、今後は更なる消費者ニーズへの的確な対応、安全で高品質な生産物の供給と消費の拡大などの対策が強く求められている。

令和4年における海面養殖業の産出額（速報値）は103億円と前年より約1.5%減少した。



③ ため池養殖業

本県では大きな水系がないものの、約170か所のため池を活用してふなを中心とした養殖業が営まれている。生産量は400tから600tの間で推移している。このうち、99%程度をふなが占めており、食用のほか釣り堀用として全国に出荷されている。

